

平成27年度（2015年度）
事業計画

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

所 信

昨年、平成26(2014)年度の本連盟の大きなイベントは、創立90周年記念事業でした。1924(大正13)年「大日本水上競技連盟」として発足以来、90年という節目を迎えました。海外から国際水泳連盟(FINA)マグリオーネ会長、国内からは日本体育協会張会長、日本オリンピック委員会竹田会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会森会長と、日本のスポーツ界を代表するリーダーの方々が揃ってお祝いに駆けつけ、750人を超える方々にご参会いただき盛会となりました。まさにオールジャパンのごとく、水泳界に一本の芯がとおったような素晴らしい機会となりました。この場をお借りして各加盟団体をはじめ、協賛企業各社様や多くの関係の皆様のご支援ご協力に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

本年度の事業は大半を終え、余すところ数大会を残しておりますが、これらも順調に推移する見込みであります。皆さまのご理解とご支援の賜物と重ねて感謝申し上げますと共に、今年度事業の完遂に向けて気を緩めることなく、引き続きのご尽力をお願いする次第です。

さて、平成27年度事業計画作成にあたっては、リオデジャネイロ・オリンピック前年、その先の東京オリンピックまで5年となり、極めて重要な年となります。引き続き“センターポールに日の丸を！”をスローガンに、強化部門は勿論のこと、各部門が更に連携を強固にしなが、気を引き締め、何事もスピード感をもって目標達成に向けて邁進してまいります。

まず、競技力向上事業に関しましては、競泳は7月に開催されます『第15回世界水泳選手権大会[50m](ロシア・カザン)』を最大の重点目標とし、8月の「ユニバーシアード大会(韓国・光州)」、さらに次世代につながる9月の「世界ジュニア選手権大会(シンガポール)」などに、鍛錬した力を基盤に挑戦していきたいと考えております。飛込については、世界レベルへの実力アップを第一とし、若手の発掘・育成にも注力いたします。水球は、世界選手権での活躍は勿論のこと、念願の「リオ・オリンピック大陸予選」を見据えた強化、東京オリンピックで主力となる選手の発掘・育成を継続いたします。シンクロは、選手・コーチともに新たな体制で臨む初の世界選手権でのメダル奪還を目標に、徹底的な強化を実施してまいります。また、OWSにつきましても、トップ選手強化と並行して、2020年対策としての国体正式種目採択に伴う国内競技会の充実、次世代選手の発掘・強化育成を行います。

次に、競技運営事業としては、東京オリンピックの運営面での対策として、競技役員の育成や国際審判員の養成、ボランティアスタッフの育成など、運営側の経験値をあげるような施策を計画性をもって推進します。さらに、指導者養成事業では、スポーツ現場における暴力行為等の根絶に向けた資質向上と共に量的拡大に取り組んで参ります。総務事業では、日本水泳界の統一組織として、全国的な視野に立った関係機関・団体等との連携強化・協働を図り、自主的な財源の確立、マーケティング活動の推進に取り組んで参ります。

また、8月14日には『水泳の日』を東京辰巳国際水泳場において初めて開催いたします。水泳関係者の経験と知恵を結集させて、水泳競技の新たな楽しみ方、面白さなどを未来の子どもたちに伝えていく場となるよう、水泳4団体が団結して行う初めてのイベントになります。四方を海に囲まれたこの国の水難事故防止につながる取り組みとなることを期待しています。

最後となりますが、本年私達を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。リオまで1年、東京まで5年、着実な前進を続けるために、日頃培った体力・精神力を基本にして、柔軟な思考に基づくポジティブな行動力の発揮が強く要求されることです。このような情勢を念頭に置き、“チーム水泳ニッポン”の構築を実現するべく、日本水泳界が一丸となって「オールジャパン」の体制で前進していきたいと願っている次第です。各加盟団体をはじめ関係の皆さまのなご一層のご理解ご支援をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成27(2015)年2月28日

会長 鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度
競	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会				◎
	アジア選手権大会		○		
	東アジア大会			○	
	短水路世界選手権大会		○		○
泳	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会				○
	ジュニア世界選手権大会	○		○	
	豪州ジュニア遠征	○	○	○	○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○
	ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会			○	
	地域代表海外派遣 (シンガポール)	○	○	○	○
飛	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	FINAワールドカップ	◎			◎
	アジア選手権大会		○		
	東アジア大会			○	
	FINAワールドシリーズ				○
込	グランプリ大会 (カナダ・イタリア他)	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
	世界ジュニア選手権大会		○		○
	ユース海外派遣	○	○	○	○
水	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会				◎
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	アジア選手権大会		○		○
球	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会 (U17)	○		○	
	アジアジュニア選手権大会 (U19)		○		○
	ユース世界選手権大会 (U18)		○		○
	ジュニア世界選手権大会 (U20)	○		○	
シ ン ク ロ	オリンピック大会		◎		
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会				◎
	アジア選手権大会		○		
	東アジア大会				
	オリンピック大会予選会		○		
	ワールドカップ大会				○
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
ジャーマン・フレンチオープン	○	○	○	○	
クリスマスプライズプラハ	○	○	○	○	

事業の方針

I 競技大会開催事業

平成27年度も引き続き、競泳・飛込・水球・シンクロの日本選手権を中心に全国で開催される主要大会の企画・運営を行う。その際に、大会企画と競技運営の役割分担を明確にし、各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密にして、企画、立案、運営、予算管理を行い、準備から大会終了までを統括する。日本選手権等への各加盟団体からの役員派遣や主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した高いレベルの大会運営を目指す。

1. 国内競技会開催事業

(1)【競泳競技】

① 日本選手権水泳競技大会 兼第16回世界選手権大会代表選手選考会 兼第28回ユニバーシアード競技大会代表選手選考会	4月7日～12日	辰巳国際	東京
② ジャパンオープン2015(50m)	5月22日～24日	辰巳国際	東京
③ 日本大学・中央大学対抗戦	7月4日	辰巳国際	東京
④ 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	7月5日	辰巳国際	東京
⑤ 日本実業団水泳競技大会	8月1日・2日	鴨池公園	鹿児島
⑥ 全国国公立大学選手権大会	8月8日・9日	千葉国際	千葉
⑦ 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	京都アリーナ	京都
⑧ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	秋田県立	秋田
⑨ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～26日	辰巳国際	東京
⑩ 日本学生選手権水泳競技大会	9月4日～6日	浜松市	静岡
⑪ 国民体育大会	9月11日～13日	秋葉山公園	和歌山
⑫ 日本選手権水泳競技大会(25m)	10月28日・29日	辰巳国際	東京
⑬ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

(2)【飛込競技】

① 日本室内選手権飛込競技大会 (翼ジャパンダイビングカップ)	6月5日～7日	辰巳国際	東京
② 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	京都アリーナ	京都
③ 全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	県立総合	秋田
④ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～25日	大阪プール	大阪
⑤ 日本学生選手権大会	9月5日・6日	宮城県総合	宮城
⑥ 国民体育大会	9月11日～13日	府立門真	大阪
⑦ 日本選手権水泳競技大会	9月18日～20日	辰巳国際	東京
⑧ 国際大会派遣選考会	11月14日・15日	辰巳国際	東京
⑨ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月25日・26日	辰巳国際	東京

(3)【水球競技】

① 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	大阪プール	大阪
② 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～26日	府立門真	大阪

③ 日本学生選手権大会	9月4日～6日	さがみはら	神奈川
④ 国民体育大会	9月7日～9日	秋葉山公園	和歌山
⑤ 日本選手権水泳競技大会	10月9日～11日	辰巳国際	東京
⑥ 全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷屋内他	岡山
⑦ 全日本ジュニア(U17)選手権大会	3月18日～21日	柏崎	新潟
⑧ 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉
(4) 【シンクロ競技】			
① 日本選手権水泳競技大会	5月2日～4日	辰巳国際	東京
② 日本シンクロチャレンジカップ2015	8月5日～8日	辰巳国際	東京
③ 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～25日	運動公園	長野
④ 日本学生選手権	8月30日	日本ガイシ	愛知
⑤ 国民体育大会	9月9日	府立門真	大阪
⑥ 13～15歳ソロ・デュエット大会	1月23日	辰巳国際	東京
⑦ シンクロナショナルトライアル2016	1月24日	辰巳国際	東京
(5) 【その他】			
① OWSジャパンオープン2015館山	9月23日	館山北条	千葉
② 日本マスターズ大会	7月16日～20日	辰巳国際	東京

2. 国際競技会の開催事業

新たな組合せによる競泳ワールドカップを主管団体として成功に導くとともに本連盟からの国際大会への役員派遣もより充実させる。更に、国際大会の積極的な招致活動を行う。

(1) 【競泳競技】

① FINAワールドカップ東京大会	10月28日～29日	辰巳国際	東京
-------------------	------------	------	----

3. 各競技委員会事業

(1) マーケティング事業

2020年東京オリンピック開催が決定し、協賛企業が増えている。強化事業との更なる連携を図るとともに2016年のリオ・オリンピックや、日本で開催されるアジア選手権の準備と、今年度実施初年度となる「水泳の日」に向けて、新たな協賛企業の獲得などの積極的な事業展開を行う。

(2) 競技事業

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や全国高等学校体育連盟・日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と連絡調整を密にして、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。特に本年度より同時開催となる全国高等学校選手権と全国中学校水泳競技大会については、派遣役員の適正な配置などに配慮する。また、競泳競技規則の部分改定を踏まえて、国内における競技規則の正しい適用と円滑な大会運営を担う競技役員の育成を図る。

(3) 学生競技会事業

日本学生選手権水泳競技大会を始めとする全ての学生大会の成功に向けて全力で取り組む。また、全国代表者会議を開催（年4回）し、各支部間相互の連絡融和を図り、厳正な学生水泳競技精神の養成・向上をめざす。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備すると共に、社会的な基盤を整備し、その水準を維持することにより、更なる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

水泳競技大会への参加者やその記録を管理するため、競技者（選手・団体）を登録管理する事業を行う。競技者登録システム（Web-SWMSYS）の安定稼働と機能改善を行うとともに、登録料の年度内回収について周知を図る。

2. 競技規則制定事業

国際水泳連盟（FINA）の競技規則との整合性を図るとともに、最新版の全競技規則の改訂情報などをWEBを通じ、適宜情報発信を行い、全国統一した理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を実施する。

3. 競技役員養成・登録事業

本年度も「全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指し、本連盟の主催大会における各加盟団体競技委員長等の実技研修も引き続き行う。また、例年通りブロック研修会並びに加盟団体主催の研修会を実施する。参加者の募集を積極的に行い、全国各地で統一感が得られるように取り組む。

また、公認競技役員と公認審判員の更新業務を円滑に行うとともに、管理・活用についての研究を継続する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、これを管理する事業を行う。各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告については、各地の情報システム担当者の協力により、記録結果の管理事業も順調に推移している。今後は、記録管理系システム環境の整備による、記録ランキングシステムと連携したモバイル機器（携帯・スマホ）の対応拡大とシステム保全作業の効率化を図る。

5. 施設用具公認推薦事業

競技場であるプールの新規公認及び更新登録を行う。また、競技に係る施設用具や水泳競技に関連する企業との連携を図り、公認推薦事業を行う。

6. アンチ・ドーピング事業

国際的なドーピング防止活動の一環として、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携し、主催大会においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。選手の権利を守る立場であるNF代表役員を主要競技大会のドーピング検査会場に配置する。また、競技会でスポーツファーマシストによる相談ブースを設け、選手や指導者に薬の使用方法等をアドバイスやジュニア選手を対象にナショナル合宿においてアンチ・ドーピング講習による啓発活動を行う。

III 選手派遣事業

リオに向けての残り1年、2020東京まで5年、強化の勢いを加速させ世界で戦える底力をつけることを最大目標に取り組む。大きく飛躍するための計画・準備等を月一回特別強化本部会議にて4部門の進捗状況を把握する。この会議はオリンピックに向けた競技力向上のために強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、各部門を支援し推進することを趣旨とする。2020東京大会に向け、さらに水泳界の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC事業

(1) 第28回ユニバーシアード競技大会

- | | | |
|-----------|------------|-------|
| ① 期間・場所 | 7月2日～7月14日 | 韓国・光州 |
| ② 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 7月4日～11日 | |
| (b) 飛込 | 7月9日～9日 | |
| (c) 水球 | 7月2日～14日 | |
| (d) OWS | 7月4日～11日 | |

2. 特別事業

(1) 第16回世界水泳選手権大会

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| ① 期間・場所 | 7月24日～8月9日 | ロシア・カザン |
| ② 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 8月2日～8月9日 | |
| (b) 飛込 | 7月24日～8月2日 | |
| (c) 水球 | 7月26日～8月8日 | |
| (d) シンクロ | 7月25日～8月1日 | |
| (e) OWS | 7月25日～8月9日 | |

IV 選手強化事業

あと5年で2020東京オリンピック。2016リオ・オリンピックでは、競泳は金メダルと過去最多メダル獲得、シンクロはメダル獲得、飛込・OWSは上位入賞、水球は男女共

に出場を目指す。リオ・オリンピック大会をステップとして2020東京オリンピックの成功に結びつけるには、毎年の成果を確実に積み重ねるしかありません。

2020東京オリンピックに対するミッション設定と将来への長期的なロードマップは、机上の空論にならぬよう強化状態を確認する意味も含めて、月一回特別強化本部会議を実施して4部門の進捗状況を把握する。

1. 競泳強化事業

オリンピックの中間年である昨年は、パンパシフィック大会(優勝5人7種目)、アジア大会(萩野公介選手 MVP)、世界短水路大会(金3含むメダル10)、ユースオリンピック大会(渡辺一平金メダル)、ジュニアパンパシフィック大会(金メダル5)の主要大会でリオ・オリンピックへの課題を明確にして臨みそれぞれ成果を残せた。

2020年東京オリンピックに向けての長期的な目標達成のための具体的な強化策、①女子強化 ②男子自由形強化 ③ジュニア SS 合宿(10月より東西で月1合宿)④中高生の日本選手権・ジャパンオープン大会特別出場 ⑤中学1・2年生の対象大会増等をスタートさせた。

オリンピック前年(平成27年度)の最主要大会を8月第16回世界選手権カザン大会とし4月の日本選手権で代表を選考する。本大会では次の目標を掲げ前年以上のレベルアップを図り来年のリオ・オリンピックに備える。

- ①リレー6種目のオリンピック出場権(12位)獲得
- ②複数の金メダル獲得(個人のオリンピック出場権付与)
- ③オリンピック種目2桁メダル獲得

昨年に引き続き、各国際大会に向けての強化合宿に加え、4月の日本選手権終了後、ゴールデンウィーク期間にインターナショナル突破者にジュニアエリートBを加えて強化合宿・ユニバーシアード代表合宿(静岡)を行う。継続して下期に実施しているインターナショナル合宿(年4回)は JISS で行う。

ジュニア強化(高校生及び中学生)に関しては、8月世界ジュニア選手権及びアジアエージ大会に代表を派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールに派遣し強化する。また、国内強化は中央と地方で行い、ジュニア SS(中央:東西で月1合宿)と第38回ナショナル強化合宿(中央:12月14日～22日)とジュニアブロック合宿(10地域)、エリート小学生合宿は年2回(春・秋)継続して合宿強化を実施する。

(1) 国際競技会

①	オーストラリアグランプリ	5月・6月	オーストラリア
②	ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ
③	ユニバーシアード競技大会	7月	韓国・光州
④	世界選手権	8月	ロシア・カザン
⑤	世界ジュニア選手権	8月	シンガポール
⑥	アジアエージ選手権	未定	未定
⑦	ワールドカップ	8月～11月	ヨーロッパ・アジア・中東
⑧	選抜遠征	2月	オーストラリア
⑨	ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

(2) 強化トレーニング合宿

- ① 海外合宿(フラッグスタッフ・ゲーム)

②	世界選手権合宿	4月・5月	JISS
③	世界選手権高地合宿	6月～7月	アメリカ・フラッグスタッフ
④	世界選手権強化合宿	4月～7月	JISS・GUAM
⑤	世界選手権直前合宿	7月	ロシア・カザン
⑥	世界選手権・世界ジュニア合宿	6月	オーストラリア
⑦	ユニバーシアード合宿	4月・6月	JISS
⑧	ユニバーシアード合宿	5月	静岡
⑨	世界ジュニア選手権合宿	7月・8月	JISS
⑩	エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
⑪	インターナショナル・JrB 強化合宿	5月	JISS
⑫	リレー強化合宿	12月	JISS
⑬	ナショナル合宿	12月	鈴鹿・富士
⑭	インターナショナル合宿	10・11・12・2月	JISS
⑮	地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
⑯	ジュニア SS 合宿	年7回	JISS・近畿大学他

(3) コーチ派遣・招聘

①	ASCA会議	9月	アメリカ
②	オリンピック視察	未定	リオデジャネイロ

(4) 企画、研修及び講習会

①	全国強化コーチ会議	9月	東京
②	ナショナルコーチングスタッフの育成	9月	東京(クリニック)
③	ブロック合宿担当者会議	10月	東京
④	強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

2. 飛込強化事業

2015年度シニアにおける強化について競技会強化では、リオ・オリンピックの予選会を兼ねている国際大会（世界選手権・アジアカップ・ワールドカップ）の国内選考会では、多くの選手にチャンスを与え競わせ切磋琢磨させながら競技力の向上を図る。そして7月の世界選手権大会（ロシア・カザン）では、メダルを目指し、1人でも多くの日本代表選手が早期にリオ・オリンピック出場権を獲得する。また、次のチャンスである11月開催予定のアジアカップ（マレーシア）においても優勝し、オリンピック出場権を獲得する。最終予選である2016年2月開催のワールドカップ（ブラジル）も視野に入れ、1人でも多くの日本代表選手がオリンピック出場権を獲得していく強化方針である。また、ユニバーシアード大会（韓国）での入賞への可能性を拓ける派遣方針により最大4名の派遣を目指す。その他、グランプリ大会出場（MEX/CAN/PUR）を含め国際大会派遣を実施する。国際大会で好結果をあげるため日常の所属練習から事前合宿までの方針やポリシーを深く理解し、高いモチベーションを強く持ちながら日ごろの所属練習の充実を心身共に図る。国際大会派遣前の国内事前強化合宿においては、各スタッフ・選手全員参加の合宿を長い期間設け競技力と安定性を上げ、また情報やポリシーを共有し、チーム意識を高く持ち大会に望めるよう強化し日本代表選手としての心構えと団結心を図ることを方針とする。

ジュニア強化では、昨年度の世界ジュニア選手権において、Bグループの高飛込優勝者、西田玲雄選手と飛板飛込入賞の三上紗也可選手が International Youth Diving 大会(ドイツ)からの招待を受け派遣する。また、アジアエージ選手権にも6名の選手派遣を計画。強化合宿は、ジュニアで2回、またエリート小学生合宿は4年目を迎え、さらに内容を充実させ国際的に通用する選手育成を目指す。またエリートアカデミー制度導入2年目となり選手4名を中心に JISS を核とした NTC 競技別強化体制の確立を充実させる。

(1) 国際競技会

① FINA-GP(メキシコ)	メキシコ・TBC	4/2～5
② FINA-GP(カナダ)	カナダ・ガティノー	4/9～12
FINA-GP(プエルトリコ)	プエルトリコ・サンファン	4/16～19
③ Inter-Youth(ドイツ)	ドイツ・ドレスデン	4/23～26
④ アジアエージ	未定	未定
⑤ アジアカップ(マレーシア)	マレーシア・クアラルンプール	11月
⑥ COMO Inter(カナダ)	カナダ・モントリオール	12/4～7
⑦ ワールドカップ(ブラジル)	ブラジル・リオデジャネイロ	2/19～24

(2) 強化トレーニング合宿

① ナショナル海外合宿助成事業		
② ナショナル強化国内合宿		
(ア) 第1回世界選手権強化合宿	6/15～21	(大阪)
(イ) ユニバー強化合宿	6/11～6/21	(JISS+辰巳)
(ウ) 第2回世界選手権強化合宿	7/1～10	(鈴鹿)
(エ) 第2回ワールドカップ強化合宿	1/28～2/7	(鈴鹿 or 富士)
③ ナショナル スクアット強化合宿		
年3回の実施予定	6月・8月(JISS+辰巳)・10月(鈴鹿 or 富士)	
④ ジュニア強化合宿		
年2回の実施予定	11月(JISS+辰巳) 12月(鈴鹿 or 富士)	
⑤ エリート小学生合宿		
年2回の実施予定	10月(JISS+辰巳) 1月(鈴鹿 or 富士)	

(3) エリートアカデミー活動 通年 (JISS+辰巳・千葉国際・青木町公園)

- ・ ナショナルトレーニングセンターの施設を十分活用し他競技を含めた専任のトップレベルの指導者による長期的・集中的な競技スキルの指導プログラム
- ・ ライフスキル、コミュニケーションスキルを身につけさせ、社会性、人間性を向上させるための知的能力開発プログラム
- ・ 共同生活を通じて必要な社会規範を意識させ、日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養うためのプログラム
- ・ 国際人として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム
- ・ 基本的な学力の定着を図るための学習(補習)プログラム
- ・ 国際大会派遣による競技力向上及び海外選手との交流を図り国際的資質を高める

(4) 企画・研修会及び講習会

① 強化コーチ会議	10月大阪・他	数回
-----------	---------	----

② ブロック代表者会議	12月5日・6日	東京
③ 公認審判員研修会		
(a) A級・B級公認審判員中央研修会	5月・6月・7月	他数回
(b) C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時

3. 水球強化事業

平成27年度は、男女ともに「FINA 水球ワールドリーグ」と「第16回 FINA 世界水泳選手権大会（ロシア・カザン）」に代表チームを派遣する。また、今年度は「2016年リオデジャネイロ五輪」出場権をかけた重要な年度となる。代表チーム編成については、4年のスパンをかけて若手戦力を加え、世代交代を戦略的に進めてきた。強化内容についても、ルールと判定基準の大幅な変更に対応して、日本人の「強み・弱み」を取り入れた「日本独自のスタイル」を構築するため、体力向上に取り組む。

また、代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業とオーストラリア・中国との合同合宿については、内容を見直しながら継続していく。代表選手選考方法については、国際試合と主要国内競技会を選手選考の場とすることで選手間の競争意識を持たせることに成功している。また、国内競技会のレベルアップにもつながっているため、平成27年度も引き続き継続していく。今年度は何としても、カザフスタン・中国を破り2016年リオ・オリンピック出場権を獲得する。

2020年東京オリンピックを見据えた育成・強化については、1993年生まれ以降の男女を「第28回ユニバーシアード大会（韓国・洙州）」「世界ジュニア選手権（U20）」に派遣して経験を積ませる。この選手たちは、2020年東京オリンピック時に代表主力選手となる24-25歳である。この世代は昨年「アジアジュニア大会（U19）」において、男女ともにライバル国のカザフスタンと中国を破りアジア No1となった。今年度は男女ともに世界大会での戦いが期待される。また「アジアエージ選手権」に1998年生まれ以降の男女選手を派遣してアジア No1を目指し、更なる発掘・育成・強化を進め、2020年東京オリンピック時22歳以下の選手層底上げを図る。

(1) チーム派遣

① 男子ワールドリーグ予選	米国・ロサンゼルス	3月30日～4月4日
② 女子ワールドリーグ予選	ニュージーランド・オークランド	4月28日～5月3日
③ 男子ワールドリーグ・スーパーファイナル	イタリア・ベルガモ	6月23日～28日
④ 女子ワールドリーグ・スーパーファイナル	中国・未定	6月9日～14日
⑤ 男女ユニバーシアード	韓国・洙州	7月1日～14日
⑥ 男女世界選手権	ロシア・カザン	7月24日～8月1日
⑦ 女子世界ジュニア選手権	メキシコ・グアダハラ	8月15日～23日
⑧ 男子世界ジュニア選手権	カザフスタン・アルマトイ	9月4日～12日
⑨ 男女アジアエージ選手権	未定	未定
⑩ 男女リオ・オリンピックアジア大陸予選	中国	未定

(2) 国際大会派遣選手選考会

① ワールドリーグ・スーパーファイナル	2014年度選考対象試合・他	2月10日
② 男女世界選手権	2014・15年度選考対象試合・他	5月19日
③ 男女世界ジュニア選手権	2014・15年度選考対象試合・他	6月2日

- | | | |
|---------------|-------------------|------|
| ④ 男女アジアエージ選手権 | 2014・15年度選考対象試合・他 | 9月1日 |
| ⑤ 代表候補トライアル | JISS | 2月 |

(3) 強化トレーニング合宿

- | | | |
|--------------------|-----------|--------------|
| ① 海外拠点強化合宿（男女） | 豪州・ハンガリー他 | 7月・10月・11月 |
| ② 国際競技会国内事前合宿 | JISS他 | 4月-6月・8月・9月 |
| ③ ナショナルチーム強化合宿（男女） | JISS他 | 4月-9月・11月-3月 |
| ④ 男女ジュニア・ユース研修（男女） | 岡山・倉敷 | 12月27-30日 |
| ⑤ 海外選手派遣事業 | ヨーロッパ通年 | |

(4) チーム招聘・コーチ招聘

- | | | |
|-----------------|------|--------|
| ① 男子米国・豪州代表合同合宿 | JISS | 7月・11月 |
| ② 女子米国・豪州合同合宿 | JISS | 7月・11月 |

(5) 企画・研修及び講習会

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ① 男女強化コーチ会議 | 6月・8月・9月・10月・3月 |
| ② 全国コーチ会議・研修会 | 10月 |
| ③ 国際情報収集 | |
| ④ 日本代表ゲーム分析・評価事業 | |
| ⑤ 強化指定選手研修会 | 4月・11月 |
| ⑥ コーチ研修会 | 10月 |
| ⑦ 審判指導者合同研修会（国際トップ審判員の招聘） | 10月 |
| ⑧ ジュニア指導者研修会 | 12月 |

4. シンクロ強化事業

平成27年度は、リオ・オリンピックアジア大陸予選を兼ねたFINA世界選手権（7月、ロシア）およびリオ・オリンピック予選（3月、ブラジル）の2大会が最重要大会となる。昨年、FINAワールドカップ（10月、カナダ）で復活の兆しを見せたが、真の戦いは今年の世界選手権となる。代表選手を平成26年10月から段階的に選抜し、平成27年1月より強化合宿を始動した。メダルを目指し戦うためには、チーム全体のスケールの大きさ、ダイナミックさが不可欠である。そこで代表選考会においては、これまでの選考方針を踏襲し身長減点を採用、大型で技術力の高い選手を選考する。代表強化においては、身体体積の高さ、リフト強化、スケール感向上などを重点課題とし、同時性、正確性をさらに極め、世界選手権での全種目表彰台をめざして長期国内強化合宿を積む。また、世界選手権に新たに導入されたミックステデュエット（男女混合）種目に日本代表を派遣、表彰台をめざす。

さらに、2020年東京オリンピックを見据え、B代表とジュニア代表の強化を重視する。B代表は今年度よりチーム派遣とし、次世代の選手強化を推し進める。B代表をスペインオープン（6月、スペイン）、ジュニア代表をアジアエージ選手権に派遣する。また、リオ・東京オリンピック対策として平成26年秋より開始したジャンパー育成プロジェクトを継続、専門講師による特別トレーニングを積み、リフト強化を促進する。

ユース年代（12～15歳）については、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手とジャンパー強化選手

を選抜し、エリート強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、次世代の中心戦力になる選手を着実に育成する。

選手強化と並行してトップレベルの指導者と審判員の育成も重要な柱である。コーチキャンプ、ナショナル審判研修会、審判研修会等を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

(1) 国際競技会

① スペインオープン	6月	スペイン
② 世界選手権	7月	ロシア・カザン
③ アジアエージ選手権	未定	未定
④ クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ
⑤ リオ・オリンピック予選	3月	ブラジル・リオデジヤネイロ

(2) 強化合宿

① 世界選手権合宿	4月～7月	JISS・なみはや
② 世界選手権ミックスデュエット合宿	4月～7月	JISS
③ スペインオープン合宿	5月～6月	JISS
④ アジアエージ選手権合宿	7月～	JISS
⑤ リオ・オリンピック予選振付合宿	8月	JISS
⑥ リオ・オリンピック予選合宿	9月～2月	JISS
⑦ リオ・オリンピック予選海外合宿	12月・1月	グアム
⑧ リオ・オリンピック予選事前合宿	2月	ブラジル・サンパウロ
⑨ リオ・東京五輪対策候補選手合宿	9月～11月	JISS
⑩ ジャンパー育成プロジェクト合宿	10月～3月	JISS
⑪ 全国選抜シニア中央合宿	12月	JISS
⑫ 全国選抜ジュニア中央合宿	12月	JISS
⑬ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑭ ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿	10月～12月	JISS

(3) コーチ・役員 派遣・招聘

① 海外振付コーチ招聘	8月	JISS
-------------	----	------

(4) 企画・研修及び講習会

① 全国強化担当者会議	11月	JISS
② ナショナルコーチ・国際審判員会議	9月	JISS
③ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	10月～3月	各ブロック
④ 全国コーチキャンプ	11月	JISS
⑤ ナショナル審判強化研修	9月～2月	JISS
⑥ 審判研修会、レフリー派遣	6月～2月	競技会開催地ほか
⑦ ユース・ブロックセレクション巡回	6月・7月	各ブロック
⑧ 競技者育成プログラムバッジテスト	4月～3月	各加盟団体
⑨ 国際情報収集、競技力分析		
⑩ 代表派遣選手選考会、選考会申合せ会	9月～3月	JISS ほか

5. OWS強化事業

- (1) 第16回世界選手権大会におけるリオ・オリンピック出場権獲得
- (2) 第28回ユニバーシアード大会におけるメダル獲得
- (3) 大学生選手層、ジュニア選手層の拡大(強化の普及)

6. 科学事業

関係諸委員会, JISS, JOC と一層連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。引き続きレース分析システムの再構築を図りながら、国内の主要競技会等で実施する。データの利用促進を含め、データベース化の検討を進める。そして、教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力する。また、同学会が行っている第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018年筑波大学にて開催予定）の計画・準備活動に協力する。学会等における最新の科学的知見を広報委員会と連携し、月刊水泳等で広く周知させることに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生やナショナル選手の合宿等で科学情報の収集や提供、飛込・水球・シンクロ・OWS の各委員会が行う科学サポートに協力する。

(1) 競泳のレース分析・撮影

- ① データの公開・利用の促進ならびにデータベース化の検討
- ② 第91回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
- ③ ジャパンオープン2015(50m)におけるレース分析
- ④ FINA 競泳ワールドカップ東京2015および第56回日本選手権競泳競技(25m)におけるレース撮影
- ⑤ 第83回日本高等学校選手権水泳競技大会、第55回全国中学校水泳競技大会、第38回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会におけるレース分析（決勝レース）

(2) 教育・啓発活動

- ① 2015年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力
- ② 第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018開催）の計画・準備活動への協力
- ③ 指導者資格付与制度への協力

(3) 競技力向上に関する科学サポートの推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート（春・秋）
- ② 競泳ナショナル強化合宿における科学サポート（2ヶ所）
- ③ 水球、飛込、シンクロ、OWS の合宿等における科学サポート

7. 医事事業

平成27年度は、関係諸委員会, JISS, JOC との良好な連携を保ち、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究報告活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、アンチ・ドーピング活動、障害予防プログラムの考案と実践、JISS

クリニック・リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティングを実施する。また、2020東京オリンピックでの活躍が期待されるジュニア世代へのメディカルサポート活動としてジュニア合宿へのメディカルスタッフの派遣によるメディカルチェック、障害予防対策、女性選手のサポート等を行う。

教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等に協力する。

(1) 競技大会における救護・支援活動

(2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニングおよび障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動及び調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化

(3) 教育・啓発・研究活動

- ① 日本水泳ドクター会議への協力
- ② 日本水泳トレーナー会議への協力
- ③ スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
- ④ 障害を予防するための研究・予防プログラムの普及
- ⑤ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

本連盟にとって強化と普及は、二本柱の重要課題であり、平成27年度も指導者養成事業、マスタース水泳を主とした生涯スポーツ事業、国体正式種目化が決定したOWS普及事業、日本泳法保存事業、月刊水泳等の機関誌発行事業、さらにホームページを活用した広報事業に取り組む。また、今年度からの新事業として『水泳の日』のイベントを立ち上げ、全国に普及を図る。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、(公財)日本体育協会と連携協力し指導者養成事業を実施する。

また、(公財)日本体育協会が実施している指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システムの活用を三委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

(1) 地域指導者養成事業

- ① スポーツ指導者に関する事業
 - (a) (公財) 日本体育協会 指導員・上級指導員新規養成事業の推進
 - (b) 加盟団体による指導員養成
 - (c) ブロック別主管加盟団体による上級指導員の養成 (栃木県、宮城県、高知県)
 - (d) 日本体育協会 指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
 - (e) 基礎水泳指導員に関する事業
 - (f) 基礎水泳指導員資格取得者の登録
 - (g) 養成に関わる督励・指導・助言
 - (h) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審査
 - (i) 免除適応校専門科目検定/全国4会場 (北海道, 東京, 名古屋, 大阪)
 - (j) マスター指導員中央研修会の実施
 - (k) 安全対策の普及徹底
 - (l) 全国地域指導者 (普及) 委員長会議の開催
 - (m) 各種依頼事業への協力
- ② 普及に関する研究事業
 - (a) 総合保障制度への加入推進
 - (b) 加盟団体各ブロック委員長会議・研修会の開催

(2) 競技力向上コーチ養成事業

- ① 資格審査 (年2回) の実施
- ② コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業
- ③ コーチ研修会事業 (コーチ11会場・上級コーチ2会場)
- ④ コーチ・上級コーチ養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース認定校の開拓

(3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - (a) 適応コース講習検定会の実施 (日本水泳連盟担当)
 - (b) 適応コース大学検定会の実施 (日本水泳連盟担当)
 - (c) 適応コース認定校の新規開拓 (日本水泳連盟担当)
- ② 新規養成コース講習検定会の実施 (日本スイミングクラブ協会担当)
- ③ 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ④ スキルアップ講習会の開催 (日本水泳連盟担当)
- ⑤ 水泳教師資格の新規・更新登録事業 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ⑥ 水泳教師資格更新研修会事業 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- ⑦ 水泳教師在籍施設証明事業の推進 (日本スイミングクラブ協会と合同推進)

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳では、日本マスターズ水泳協会及び日本体育協会と連携しながら、日本スポーツマスターズ大会の更なる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援していく。

泳力検定事業では、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門として位置づけ、水泳技能に係わるスポーツ検定として推進していく。

また、本連盟の2020年に向けての構想の一環として、水泳4団体の主催として8月14日

を「水泳の日」と制定し、水泳を通して子供から大人まで多世代にわたり水泳を楽しむことができるイベントを行っていく。本年は第1回目のスタートイベントを東京辰巳国際水泳場（8/14）にて開催を予定。そのために、実行委員会を中心として各委員会・関連団体と連携を図り企画・立案・運営に全力を尽くす。

(1) 日本スポーツマスターズ事業

- ① 日本スポーツマスターズ2015水泳競技石川大会」の開催
8月29日～30日 石川県 金沢市営プール
- ② 日本マスターズ水泳協会及び日本体育協会と連携しながら、大会の更なる発展を目指す

(2) 「水泳の日」イベント開催事業

- ① 2015年8月14日 東京辰巳国際水泳場にて、水泳4団体主催の第1回「水泳の日」を開催
- ② イベントに係わる会議の企画・立案・運営
- ③ 各委員会及び関連団体との連携・連絡調整を密にして取り組む

(3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定者及び合格者の増加を図る
- ② 特別泳力検定会（10会場）等の企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰

3. OWS普及事業

- (1) OWSスイムクリニック、OWS検定会の開催
- (2) OWSスイムクリニック指導要領の策定、OWS検定基準の改訂
- (3) 認定OWS指導員の養成

4. 日本泳法保存事業

それぞれ年1回開催する日本泳法大会及び日本泳法研究会を通じ、現存13流派泳法の保存と普及を図る。日本泳法大会については、採点競技での演技の評価が適正に行われることが選手のモチベーションアップにつながり、また指導者を目指す人材育成に不可欠であることから、原則年2回開催の審判研修の充実をはかる。一方、競技経験を持たずに中高年から日本泳法を始めた泳者には、達成目標となるよう昨年より新たに設けた3資格（修水・和水・如水）への受験を勧めるとともに、日本泳法研究会時に行う研鑽会への参加資格を従来の「游士保有者のみ」から「修水」および「和水」保有者にまで拡大し、泳法の完成度を自己評価できる機会とする。

- (1) 第60回日本泳法大会 8月22日～23日 広島市総合屋内プール
- (2) 游士、練士、教士、範士、修水、和水、如水の資格認定、游士研鑽会の開催
- (3) 第64回日本泳法研究会 平成28年3月20日～21日
・東京都 ロイヤルパークホテル 課題「水府流太田派」

5. 機関誌発行事業

- (1) 月刊水泳
- (2) その他出版物

6. 広報事業

(1) ホームページ

- ① 情報システム委員会と連携を取りながら HP のより良い充実を図り、タイムリーに情報を掲載する
- ② 日本水泳連盟の歴史編纂
月刊水泳をスキャンしたものを HP に掲載。26年度にスキャンしたものを、27年度 HP にアップする

(2) 広報・報道活動

競技委員会と連携し、主要競技会のマスコミ・報道関係への告知・取りまとめを行う。

VI 組織運営のための共通事業

1. 総務関係事業

- ・地域会議の開催

2. その他の普及事業

- (1) ぱちャぽ等に係るライセンス事業の推進
- (2) 水泳ビデオ・教本の発行

3. 特別委員会事業

- | | | |
|---|--------------|-------|
| (1) 財務委員会
免税募金事業の推進 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| (2) 競技者資格審査委員会
競技者資格の審査 | 競技者資格審査委員長 | 青木 剛 |
| (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 鈴木 大地 |
| (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 設楽 義信 |
| (5) 国際委員会 (FINA・AASF)
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致企画 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 泉 正文 |
| (7) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進 | スポーツ環境委員長 | 齊藤 由紀 |
| (8) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 青木 剛 |
| (9) アスリート委員会
選手を取り巻く環境の整備、アスリートとしての意識の高揚・啓発 | アスリート委員長 | 萩原 智子 |

VII 組織運営及び財政基盤の確立

本連盟が、策定した「ドリームプロジェクト～2020年に向けての構想」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業内容の精査・充実を推進する。

各種事業の遂行にあたっては、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、文部科学省、日本オリンピック委員会、日本体育協会等の関連団体とも連携を図り実施していく。

財政面においては、全体の収支バランスを考えながら、有効適切な事業の執行、予算管理を行う。

なお、本連盟の組織運営及び財政の確立に際しては、関係者が一丸となって、各種コンプライアンスを徹底する。